

## 倉橋あじなチャレンジ

呉市立倉橋小学校 対象学年（5年）

体験活動の種類 自然 交流 勤労生産

体験活動場所・宿泊場所 北広島町・民泊

### 【学校紹介】

○本校は、広島県の南端倉橋島のほぼ中央に位置している。倉橋島の南は、海を隔てて鹿島・横島を望み、愛媛県・山口県に接している。北にせまる標高 455mの火山からは、瀬戸内海国立公園の美しい風景が一望できる。

本校の教育目標は「自信を持って自ら語れる倉橋っ子～かしこく やさしく たくましく～」で、研究主題を「ふるさと学習と言語活動の充実～書く活動・話す活動を通して～」として、生活科・総合的な学習の時間を中心に地域とのかかわりを中心にした学習展開に取り組んでいる。

○校長名：石崎 勝枝

○児童数（学級数）：74名（7学級）

○所在地：広島県呉市倉橋町 963 番地

○電話番号：0823-53-0011

○URL：<http://www.kure-city.jp/~krhs/>



### 【体験活動のねらい】

○山や川の自然にふれあうことにより、環境に関する関心を高め、自然環境を守ろうとする意識を高める。

○民泊体験や交流体験の場で、初対面の人にも挨拶をし、人の話をよく聞き自分の思いを話して、コミュニケーション能力や人間関係づくりへの自信を持たせる。

○自分のことは自分でやりきり、自他のよさを発見し合い、振り返りながらよりよい行動ができるようにする。

○平成 25 年度 4 月に統合する倉橋東小学校・尾立小学校の三校合同で実施することで、仲間意識の醸成を図るとともに、統合後のリーダー学年としての自覚を持たせる。また、「倉橋あじなチャレンジ」という合い言葉を通して、活動全体の 3 つのねらい（あ あいさつをする、じ 自分のことは自分でする、な 仲間と協力する）を明確にし、三校が同じめあての達成を図る。

### 【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置づけ	実施場所	指導者
6～7月	ゆで卵・ゆで野菜サラダを作ろう	2	家庭科	学校	担任
	住みよいくらしと環境	1	社会科	学校	担任
	北広島町について調べよう	4	総合的な学習の時間	学校	担任
	宿泊体験活動オリエンテーション	1	学級活動	学校	担任・引率教員
	「キャンプのできごと」2－(2)	1	道徳	学校	担任

7月24日 ～27日	宿泊体験活動（3泊4日） ・太陽光発電 ・小水力発電見学 ・林業体験 ・清流体験 ・登山体験 ・伝統芸能神楽体験 ・山のくらし体験	24	学校行事 総合的な学習の時間 理科 家庭科 社会科	北広島町	学校教職員 体験活動指導員 民宿先の方
8～11月	集団活動の振り返り	1	学級活動	学校	担任
	礼状の作成	1	国語科	学校	担任
	「親から子へ、そして孫へ」4－（7）	1	道徳	学校	担任
	活動のまとめ及び成果発表会に向けて	6	総合的な学習の時間	学校	担任
	成果発表会（児童発表、地域参観日）	1	総合的な学習の時間	学校	担任

### 【体験活動の概要】

#### ○「交流」にかかわる体験活動

3～4名のグループになり、6カ所の民宿にお世話になった。それぞれの民宿先で、農作業の手伝いや家畜の世話など、自分たちの地域ではなかなかできない活動を体験することができた。特に自分たちが収穫した農作物を使っての食事作りでは、実際に収穫した物を調理することで、食材にも目を向けることができた。「苦手な野菜を食べることができた。」との子どもの感想からも、食育の面でも効果がうかがえた。

3泊4日という長い期間の民泊で、最初は不安に思っている子どもたちが多かったが、仲間と協力しながら自分たちで生活をつくっていく体験は、自立に向けての自信をつけることにつながった。また、民宿先の方とのふれあいを通して、感謝する気持ちを持つことができた。

#### ○「社会奉仕」にかかわる体験活動

自分たちがお世話になった民宿の清掃を行った。内容は、それぞれの民宿先で違ったものであったが、感謝の気持ちを活動で伝えようという気持ちを持って清掃することができた。

#### ○「勤労生産」にかかわる体験活動

林業体験では、森林組合の方に森林の役割や大切さについて分かりやすく説明していただいた。実際にミニチュアの木を使っての実験は、見ている子どもたちに大きなインパクトを与えるものであった。説明を聞いた後は、実際に自分たちも伐採作業に挑戦した。急斜面での作業は、自然を守る大変さを実感できるものであった。体験を通して、山と海はつながっており、このように木を守ってくださる方のおかげで、自分たちの生活に身近にある海が守られていることを理解することができた。



▲宿泊先でじゃがいもの収穫をしているところ



▲宿泊先の清掃活動



▲林業の果たす役割について説明を聞いているところ

【体験活動の効果を高める事後学習】

○礼状の作成（国語科）

民宿先の方への礼状づくりに取り組んだ。このとき、手紙の書き方をあわせて指導した。4日間の生活を思い出しながら、心に残ったことや感謝の気持ちを相手に伝わるように書くことができた。

○成果発表会（総合的な学習の時間）

「倉橋あじなチャレンジ報告会」として、分かりやすく伝えることをめあてに、4日間の体験活動で学んだことを伝えた。見ている人に効果的に伝える方法として、パワーポイントによる発表をすることにし、それに向けての写真選びから原稿作りまでを担当を決めて進めていった。伝えたい内容と写真をマッチさせることが難しかったが、お互いにアドバイスしあいながら完成させることができた。発表後には、他学年の児童や保護者から感想をもらうことで、達成感を感じる事ができた。



○「ふるさと倉橋魅力発信プロジェクト」（総合的な学習の時間）への発展

総合的な学習の時間では「ふるさと学習」として倉橋の魅力を発見している。今回の北広島町での体験活動を学習の中に取り入れることで、自分たちの町への見方に深まりを持たせることができた。

(1) 単元名「ふるさと倉橋魅力発信プロジェクト」（16時間）

(2) 本時のねらい 北広島町での体験と比較して、倉橋の魅力を考えることができる。(2/16時間)

(3) 学習の流れ

9 本時の展開		
学習活動	指導上の留意点 (●「努力を要する」状況と判断される児童への指導の手立て)	評価規準【概】 (評価方法)
1 北広島町の魅力を確認する。 ・前時に学習したことの確認	・北広島町の魅力についてまとめたものを掲示することで、既習事項を振り返りやすくする。 ・北広島町観光協会の宮本さんのメッセージを紹介することで、ふるさとへの思いを強くさせる。	
倉橋町の魅力を考えよう。		
2 本時の学習課題をつかむ。  ・倉橋町の魅力をカードに書く。	・前時の掲示物を参考にすることで倉橋町の魅力を考えやすくする。 ・カード一枚に対して、一つの魅力を書くようにする。 ●カードに記入する内容が浮かばない児童には、倉橋町のパンフレットを見せることで、カードの書くことをイメージさせる。	
3 倉橋町の魅力について話し合う。  言語活動の充実 ・ペアワークで交流する。  ・倉橋の魅力について意見を出し合いながら類型化する。	・ペアワークで友達と意見交流をすることで、自分の意見に自信を持ったり、新たな意見を付け加えたりする。それにより、その後の全体での意見交流を安心して行えるようにする。  ・魅力だと考える理由を言わせることで、考えに深みを持たせる。	・倉橋町の魅力を北広島町の魅力と比較しながら考えている。 (行動観察) (カード)
4 本時の学習を振り返る。		



「倉橋には、北広島町の雲月山のようななだらかな山と違って、こつこつとした岩があって、急な形をした『火山』があります。」

授業では、北広島町の魅力と比較させながら倉橋の魅力を考えるようにした。

### 【交流先や施設等との連携】

- 下見を行い、現地における体験活動場所などの安全確認や担当者との打合せを行った。これにより、活動のイメージを持つことができ、より具体的な計画を立てることができた。
- あらかじめ民宿先に自己紹介カードを送付することで、少しでも不安を取り除くことにつながった。
- 3泊4日の活動中は、各民宿先に出向き、児童の活動の様子について連携をとった。
- 活動後は、体験活動を通しての学校・児童・保護者等の感想や意見を伝えた。

### 【評価の工夫】

- 活動中には、1日の終わりに民宿ごとに振り返りをする時間を設けた。振り返りは、「体験活動のしおり」に記入するようにした。内容は、野外活動のめあてに即した「1日全体の振り返り」、「活動ごとの振り返り」、「民宿生活での振り返り」の3つの観点で行った。

次の日には、グループでまとめた反省を全体の場で発表し、お互いの反省を共有するようにした。こうすることで、常にめあてを意識しながら活動する気持ちを全体に持たせることができた。

- 成果発表会では、他学年や保護者などから感想や評価をもらい、自分たちの成長を感じさせることができた。

映像にもありましたが、子どもが楽しそうに過ごしていたことがとてもよく分かったのと、思い出に残る体験でもあり、これから成長していく中で自信がつく良い体験だったと思います。これからも忘れず頑張ってもらいたいです。

＜成果発表後の保護者の感想＞

### 【安全面の配慮事項】

- 現地の下見を行い、周辺環境や危険場所などの確認をした。また、緊急時の受入医療機関などの確認も行った。
- 健康カードやアレルギー調査などを実施した。調査内容で気になる点があるときには、保護者と連携し、適切な対応ができるように確認をした。また、その内容は現地の担当者を通じて宿泊先にもあらかじめ知らせておくようにした。特に食物アレルギーのある児童については、現地での食事に対する配慮を徹底した。
- 毎日健康観察を行い、児童の健康状態を把握するようにした。
- 北広島町観光協会が体験活動の計画から実施まで、学校側の相談に応じていただいたため、円滑に活動を進めることができた。

### 【体験活動の成果と課題】

- 体験活動前の児童アンケートでは、「積極性（意欲・自信）」の項目における自己評価が低かった。

【6】一日のふりかえり  
第1日 7月24日（火）

①今日一日の満足度  
理由

ふいけあいに、ちゃんとできたから

②自分のことは自分でできましたか  
理由

ご飯も自分でたすことができましたから

③自然や人とふれ合えましたか  
理由

おぼし仲間良くなりました

④協力して活動できましたか  
理由

ご飯を作るときみんなを協力して、いじりあうことができましたから

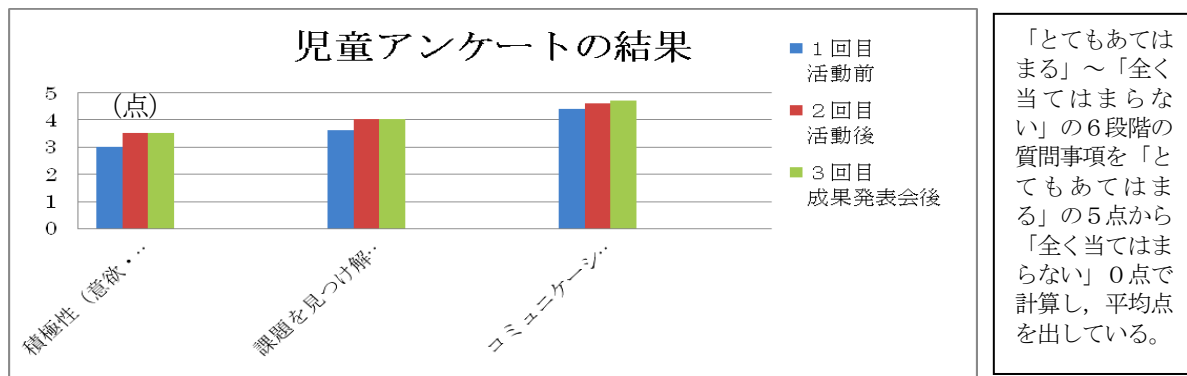
8



特に「自分のいいところが分かる」の質問については、1回目は肯定的評価が38%であった。しかし、体験活動終了後に実施した2回目は69%に上昇した。4日間という長い時間を家族と離れて集団宿泊活動をやり終えたことが大きな自信になった。また、民宿先でのふれあいは、新しい自分を知ることにつながった。

- 「課題を見つけ解決する力」では、「自分で問題点や課題を見つけることができる」の項目において「とてもよくあてはまる」が1回目の15%から2回目は38%に増えた。このことから、体験活動を通して主体的に考えて行動する力がついてきたと子どもたち自身が実感している状況がうかがえる。

体験活動終了後、国語科においてユニセフの学習を進めていく中で、子どもたちから「ユニセフ募金をやりたい。」という声が上がった。「やりたければ、どんなことをやったらよいのか考えてごらん。」と声をかけると、自分たちでユニセフ募金について調べ、どのようなことをやっていけばよいか計画を立て、実践していった。学級から全校へ活動を広げていったこの取組は、自分たちで課題を見つけ、解決する力が実際の生活の中で生かされた姿であった。



- 3泊4日というこれまでの体験活動より長い期間家族と離れることで、改めて家族のありがたさを感じた子どもが多かった。特に、家族からの手紙をサプライズ企画として渡すことで、保護者の自分への思いを受け止めることができた。高学年という思春期を迎えるこの時期に、保護者との絆を深めることができたのは、これからの生活において貴重な体験になったものと思われる。

- 3泊4日の体験活動を初めは不安を持っていた保護者からも、宿泊体験や成果発表会後には肯定的な意見を多くいただいた。保護者は、子どもたちの姿に成長した姿が少なからず変化が見られたからである。今回の体験活動を通して、いろいろな角度から子どもたちの成長を保護者と教職員が一緒に共有することができた。

一人一人が楽しくいっそう大きく成長しているのだなと感じました。「山・海・島」を通し、自身体験をすることで、今までしてもらっていた沢山のことに気づいたのではないかと思います。これからも体験してきたことを忘れず、友だちを大切に、仲良く学校生活を過ごしてほしいです。 <成果発表後の保護者の感想>

- 「積極性」「課題を見つけ解決する力」は、活動直後は伸びたが、その後は伸ばすことができなかった。活動で育った力を継続して育てていく取組が必要である。
- 体験活動で身についた力を日常の生活の中で活用するためには、長期的な計画が必要である。体験したことを一般化し、それと関連づけながら評価することも大切である。
- 統合前ということで、3校合同で体験活動を実施した。指導者にとっては、子ども一人一人の実態を十分把握できていない面もあったため、速やかに適切な対応ができない面もあった。しかし、今回の体験活動を通して見えてきた子どもたちの姿を来年度の統合に向けて生かしていきたい。